

～ 災害公営住宅第1期・入居者インタビュー ～

11月19日に引越されたばかりの相澤洋子さんのお宅にお邪魔し、入居者を代表して今の気持ちを伺ってきました。

相澤さんは、お母様が震災一年後みなし仮設のアパートで骨折し、やむを得ず有料老人ホームに入所中とのことで現在お一人住まい



です。入居前に住んでいたアパートに比べ、明るい、玄関も広く使いやすい、リビングも日中はエアコンが不要なほど陽がはいって暖かいとのことで、気持ちも明るくなったそうです。

引越し直後、15年飼っている家猫のキティが失踪し悲しんでいたら5日目に戻ってきたそうです。以前のように家の中で過ごしているの、猫が戻ってきて心も落ち着いたとおっしゃっていました。

相澤さんは、震災でお父様とお姉さまご夫婦を失い、仏壇に生花を切らさないようにしていたのですが、ここではその生花も生き生きとして、父も姉夫婦も喜んでいるように思えるとのこと。テレビで震災の画像を見るたびにカーテンを閉め切って閉じこもっていた時期もありましたが、これからは後ろばかり見ていないで前向きに私のできることをみんなと協力してやっていきたい、とお話されていました。

～借地料の減額対象者拡充のお知らせ～

東松島市では、集団移転世帯に対し借地料の減額措置を講じています。このたび、市は、「減額対象者」に認定されるケースを拡充し、集団移転世帯の借地料負担軽減を図ることになりました。詳しくは、市報12月15日号をご覧ください。

今月のペット紹介



菅井泰山(すがい・ひろたか)さんとモコ君



イルミネーション点灯式

子どもたちのために、イルミネーションの飾りつけを行い、クリスマスソングと一緒に歌いカウントダウンで点灯式を行います。親子でご参加ください!

日時：平成26年12月13日(土)午後4時～
場所：矢本運動公園仮設住宅内 あずま屋



【編集後記】

いよいよあおい地区への最初の入居が始まりました。個別に家を建てる世帯も来年には引渡しを控えて、慌ただしくなってきました。そうこうしているうちに、いつのまにか師走です。引越された方も、これからの方も、どうぞ良いお年をお迎えください。(広報部会長 土門一枝)

皆様からのご意見、ご感想をおまちしております。【集団移転に関する何でも相談窓口】開設中 あおい地区まちづくり整備協議会

〒981-0503 宮城県東松島市矢本字町浦84番地 としまち研東松島事務所内(事務局：阿部久美子、宮本愛)
Tel：0225-98-5291 / fax：0225-98-5293 / E-mail：higashimatsushima@tmk-web.com

第20号 平成26年12月10日

目次

あおい地区 まちづくり通信

発行 あおい地区まちづくり整備協議会 広報部会

- 災害公営第1期入居開始! 1面
- 第6回総会(臨時総会)報告 2面
- 住宅なんでも相談会開催 2面
- 二丁目の個別再建世帯顔合わせ 3面
- ペットについての井戸端会議 3面
- 災害公営第1期入居者インタビュー 4面
- 借地料減額対象者拡充のお知らせ 4面
- イルミネーション点灯式のご案内 4面

災害公営住宅第1期の入居が始まりました!!

11月14日、災害公営住宅第1期(先行整備街区)の入居式にて47戸の鍵が引き渡され、あおい地区で最初の入居が始まりました。

午前11時から開催された入居式では、まず阿部市長からあいさつがあり、宮城復興局長、宮城県知事、宮城県議会副議長、東松島市議会議長から来賓祝辞が述べられました。続いて、事業概要説明、工事施工者の紹介の後、入居者代表の相澤洋子さんらによるテープカット、災害公営住宅部会の相澤部会長らによる住宅銘板の除幕が行われました。

それから待ちにまった鍵の引き渡しです。施工者であるURから市へ引き渡された後、川村和之さんが入居者代表として大きな鍵を受け取りました。

最後に、大曲ふれあい太鼓が披露されて入居式を終えました。午後からは、各戸別の鍵の引き渡しが行われ、多くの世帯が鍵を受け取って、引越しの準備を開始しました。

災害公営住宅では、11月8日、9日にも、部屋の大きさや間取り、寸法、色合い、住環境などを実際に見ていただくための見学会を行い、11月29日開催の災害公営住宅部会ではIII期、IV期の災害公営住宅の改善案を検討しました。これからも継続して検討していきますので、ぜひ見学した感想や改善意見を事務局までお知らせください。

■上から、入居式でのテープカット／住宅銘板除幕／入居者代表へ鍵の引き渡し／大曲ふれあい太鼓披露



第6回総会（臨時総会）報告

10月22日、大曲市民センターで第6回目となるあおい地区まちづくり整備協議会の総会が開催されました。

議案第1号「あおい地区全体の組織体制とあおい一丁目地区自治会設立準備について」では、あおい一丁目、二丁目、三丁目それぞれ地区自治会を立ち上げ、これらを統括する形であおい地区自治会連合会を設立することが提案されました。

議案第2号「あおい地区まちづくり整備協議会規約の改正について」では、災害公営住宅第1期の入居後、自治会連合会が設立するまでの間、協議会が自治会連合会の役割を担えるようにするための規約変更案が説明されました。

議案第3号「個別に家を建てるゾーンの

街並みルール一部変更について」では壁面後退の緩和規定の明文化と、協議会員の総意として市に「街並みルール」の地区計画作・条例化を要望することを確認しました。

議案第4号「公共施設計画（公園・集会所）について」ではURの提案を基に公共施設計画検討部会で検討してきた公園や集会所の案が示されました。

以上、議案第1号から第4号まで異議なく承認されました。

なお、議案第5号はあおいペットクラブ会則（案）を承認いただく予定でしたが、ペットクラブへの全員参加の原則等に対し事務局へ意見が寄せられていることから、井戸端会議を開催して、改めて広く意見を集めて、再検討をすることとなりました。

「住宅なんでも相談会」を開催しました。

来年4月に予定されている第1期の宅地引渡しを皮切りに、個別に家を建てる世帯の住宅づくりが本格化します。既に建設業者と準備を始めている世帯にも、まだ迷っている世帯にも活用してもらえよう、協議会主催の「住宅なんでも相談会」が11月9日、大曲市民センターで開かれました。

市から「借地契約の流れ」や「再建支援金・補助金の申請」などが紹介され、金融機関

から融資制度の説明があり、ご協力頂いた住宅建設業・住宅メーカーなど45社のアピールポイントが紹介されました。

その後、会場いっぱいに並んだ建設業者・住宅メーカーのテーブルを回っての情報収集や個別相談が行われました。個別相談では、補助金・給付金等の相談、ローンと手続きについての相談、建設業者の選び方やプランに関する相談などもありました。



■全体説明を熱心に聞く参加者の皆さん



■補助金・給付金などの相談



■プランに関しての建築士との相談

二丁目で個別に家を建てる世帯の顔合わせ会

11月29日、あおい二丁目で個別に家を建てる94世帯を対象とする「顔合わせ会」が大曲市民センターで行われ、55世帯84名が参加しました。会場には、班ごとに宅地区画の位置とほぼ同じ並びで椅子が配置され、隣り近所がどなたになるか目に見える形で会が進められました。

前半は、事務局から①あおい二丁目地区自治会を来年11月を目途に設立すること、②「街並みルール」のうち、外構に関するセミパブリックゾーンや垣さくに関するルール、③境界フェンスの設置の事例等について説明がありました。

後半の「顔合わせ会」では、まず、お互いの住まいの位置関係を確認しながらあらためて自己紹介をし、続いて、班とは別の組み合わせとなる、ゴミ集積所グループを確認しました。

最後に、境界フェンス設置などに関するお隣同士の話し合いが行われました。ある街区では、南北の境界フェンスは同じもので施工し、長さに応じて費用を分担しようという話し合いがされていました。また、

お隣同士で、今後連絡が取り合えるよう「自己紹介カード」を交換したりしました。

一方、1世帯が欠席したために隣接する数世帯が相談ができずに困ったという状況もありました。事務局を通じて隣の方と連絡を取れるようにすることが了解されたので、隣接世帯と連絡が取りたい方は、事務局までお問い合わせ下さい。

なお、班所属世帯の中から「顔合わせ会」の進行係を決めて会を進めましたので、境界フェンスのことだけでなく、隣人としてお互いを知る機会ともなりました。

二丁目では、来年4月から宅地の引き渡しが始まる予定です。



■顔合わせ会のようす

ペットについての井戸端会議を行いました。

11月30日、市役所202会議室でペットについての井戸端会議が行われました。

参加者は12名と少なかったのですが、復興まちづくり推進員や復興応援隊なども参加して、総勢27名でざっくばらんに意見交換をしました。

第6回総会で提案されたあおいペットクラブ会則（案）を基に、ペットクラブの対象は犬猫に絞る、頭数は基本的には3頭まで、3号公園は子ども公園なのでペットは入れない、ペットと散歩しながら顔を合わせた人とあいさつすることが大切、細かい

会則をつくと参加しにくい、マナーなどの勉強会を開催してはどうか等など、意見を出し合いました。

方向としては、新しいまちをきれいに保ち、交流し合える気持ちの良い暮らしをめざし、呼びかけに応じてくださる世帯を中心に「あおいペットクラブ」を立ち上げたら良いのではないかと、ペット飼育に役立つ情報の共有や仲間づくりを中心とした活動をして、最終的には全員参加をめざし、次第に参加者を増やしていこうということとなりました。